

各部局等の長 殿

高浜市長 吉岡初浩

令和6年度（2024年度）予算編成について

## 第1 予算編成のスタートにあたって

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に引き下げられ、コロナ禍から経済社会が徐々に正常化に向かう中、不安定な海外情勢や原油及び物価の価格高騰など、事業者や家庭に大きな影響を及ぼす新たなリスクが顕在化している状況である。

このような中、国の経済財政諮問会議における令和6年度予算の全体像では、構造的賃上げと投資拡大の継続に向けて、今が正念場であるとしており、予算編成に当たっては、歳出における重点課題として、コロナ禍を脱し、経済が正常化していく中で、歳出効率化を徹底し、歳出構造を平時に戻していくこと、また歳出改革の充実に向け、EBPM・PDCAを活用したワイズスペンディングを徹底することで、歳出全体を通じた優先順位を明確化し、資源配分の最適化を図ることなどが挙げられている。

本市においても、これら社会情勢が目まぐるしく変化する中で、DX推進やGX推進、子育て施策などの財政需要も高まりを見せており、新たな行政課題に着実に対応していくことが求められている。一方、義務的な経費や経常的な経費も増加傾向にあり、高浜市長期財政計画における財政調整基金の推計では、令和6年度から8年度における基金残高が10億円を下回ることが見込まれており、原油価格・物価高騰の影響も考慮すると、非常に厳しい財政状況であると言わざるを得ない。

この厳しい局面を乗り越えていくため、経常的な事業について有識者によるヒアリングを試行的に実施し、事業の抜本的な見直しを図るとともに、サマーレビューにおいては、今後のDXによる行政手続きの簡素化などを始め、将来を見据えたバックキャストの考え方にに基づき、事業の方向性を再確認してきたところである。

これらを踏まえ、令和6年度予算編成においては、今後特に厳しい財政状況となる3年間を乗り越えるため、やるべきことだけでなく、やめるべきことも見極め、将来を見据えた事務事業の最適化を図り、限られた財源を適正に配分しながら、新たな行政課題にも着実に対応できるよう職員一丸となって臨み、この難局を乗り越えることを強く期待するものである。

## 第2 予算編成の基本的な考え方

令和6年度の予算編成では、バックキャストिंगの考え方に基づき、各事業における将来のあるべき姿から、現在の解決すべき課題を見出すとともに、新たな行政需要に対応するため、既存事業の縮小・廃止も含めた検討を行い、限られた財源の中で事業の選択と集中を図る「未来に繋ぐ変革予算」と位置づけ、次の考え方に基づいて予算編成を進めるものとする。

### (1) 抜本的な事業の見直し

政策的に開始した事業であっても、現状の事業成果や5年後のあるべき姿から、真に必要な内容であるかを確認し、事業の縮小・廃止も含め、改めてそのあり方を見直すこと。また、見直しを行う際は、今後のDX化に伴う行政事務の変化や効率化を考慮するとともに、客観的な事実やデータを活用し実施すること。その他、新たな財源の確保、経常経費の削減については、継続し取り組むこと。

### (2) ビルド・アンド・スクラップの徹底

新規事業の開始又は既存事業の拡充を行う場合は、その必要性や目指す成果を明確にし、成果の検証方法と達成期限を設けるとともに、各部局にて既存事業の優先順位を考え、事業の縮小・廃止を行うことにより、事業費を捻出すること。

### (3) 重点取組事業への財源配分

サマーレビュー等を踏まえ、第7次高浜市総合計画における本市が目指す将来都市像の実現に貢献する事業を「重点取組事業」として予算を優先的に配分する。

## 第3 重点取組事業

令和6年度の予算編成における重点取組事業は、以下の6事業と位置づける。

1. 安心・安全な子育て環境に関する事業
2. 教育環境の向上に関する事業
3. DX推進に関する事業
4. 地球環境の保全に関する事業
5. 地域経済の活性化に関する事業
6. 地域共生社会の実現に向けた事業